

# 南信州広域連合第12回広域連合会議 結果報告

日時: 令和8年3月16日(月) 14:15～16:10

場所: 県飯田合同庁舎 301号会議室

## 【出席者】14市町村長副管理者

〔飯田医師会〕松岡医師

〔JR東海中央新幹線長野県工事事務所〕小池所長

〔南信州地域振興局〕岩下局長

宮島副局長

〔飯田建設事務所〕折井所長

〔飯田保健福祉事務所〕岩本所長

〔下伊那郡町村会事務局〕岡庭局長

〔飯田広域消防〕下平消防長、新井消防次長兼総務課専門幹、熊谷消防次長兼総務課長

〔環境センター〕松下事務長

〔事務局〕吉川事務局長・滝沢事務局次長兼総務課長

乾地域医療福祉連携課長兼医療福祉連携係長・壬生広域振興係長

渡邊広域振興係企画調整担当専門主査

熊谷補佐兼庶務係長・幾島庶務係主事

## 1 開会…14時15分

## 2 広域連合長挨拶

先日の広域連合議会は2月25日に閉会し、大変お世話になり、感謝申し上げます。全員協議会の後に共同指令センターの視察も実施したところだが、2月9日から仮運用を開始しており、現在のところ問題なく運用できている状況だ。同様に高森消防署についても順調に運用されている。いずれも4月から本格運用となるため、消防においてしっかり対応していく考えだ。また、3月7日に前安曇野市長の太田豊氏のお別れの会に出席してきた。阿部知事からの弔辞や、生坂村長からのお別れの言葉があり、多くの関係者が参列していた。最後に奥様からご挨拶があり、その中でいろいろと考えさせられる発言があった。直接的な表現ではなかったが、「ああしておけばよかった、こうしておけばよかった」という思いに触れ、我々も同様の立場にある中で、改めて健康の重要性を感じたところだ。皆様におかれても、健康には十分留意していただきたい。

## 3 協議・報告事項

- (1) 焼肉給食実施に関する協力依頼について【焼來肉ロックフェス実行委員会】～資料 No.1～  
焼肉給食実施に関する協力依頼について資料を基に説明がなされた。

→質疑等なし

(2) リニア中央新幹線について

【南信州地域振興局宮島副局長】～資料 No.1～

1月28日に神奈川県、山梨県、長野県、岐阜県の4県共同による地域再生計画を内閣府の方へ申請をした。計画が認定された場合は、3月末に内閣府より通知がされ、国の財政支援が受けられることになる。国土形成計画に掲げる日本中央回廊の形成に寄与するため、整備効果を生かした新たな生活交流、産業・仕事、圏域をつなぐ観光、これらを支える交通ネットワークの4分野で連携して取り組んでいくことを想定した内容。3月2日から3月8日には、リニア新時代の未来をテーマとしたNBS 絵画コンクールの受賞作品の展示及びリニアに関する相談会を飯田市内で実施。このほか、2月19日、3月2日、3月31日に工事進捗に係る説明会を開催。今後の予定としては、絵画コンクールの入賞作品12点について、本日から3月31日まで飯田合同庁舎の1階ロビーにおいて展示を行っている。

【JR 東海中央新幹線長野県工事事務所小池所長】～当日配布資料～

飯田市で中央新幹線長野県駅や中央新幹線風越山トンネル上郷工事進捗状況説明会を3月3日に上郷公民館、3月7日に座光寺公民館において実施。阿智村で、中央アルプストンネル萩ノ平工区の工事進捗及び今後の見通しに関する説明会を3月2日実施。松川町で、福与河原地区圃場整備事業の圃場整備に関する説明会を2月28日に福与ふるさとふれあい館において実施。

(3) 一次救急医療対策プロジェクトチームの検討状況について 【松岡医師】～資料 No.2～

一次救急医療対策プロジェクトチームの検討状況について資料を基に説明がなされた。

休日夜間急患診療所については、医師会による持ち回りで運営しているが、医師の高齢化により将来的な継続が困難となる見込みであり、特に2030年頃には体制維持が難しくなる。在宅当番医制度についても、高齢化に伴い担い手が減少している状況。これらに対応するため、昨年度プロジェクトチームにおいて複数案を検討したが、いずれも運用面の課題が大きく、現時点では実施困難との判断となり、計画は保留となっている。今後は、医師数の減少抑制が重要であり、若手医師の定着及び開業促進に向けた取組が必要であるとの認識が示された。具体的には、開業支援等の環境整備が有効であるとの説明があった。また、地域枠医師の義務年限終了を見据え、地域への定着促進を図る必要があるとの指摘があった。市立病院の総合診療科を活用した研修体制の構築により、総合診療医の育成及び確保を図る可能性が示された。

(主な意見等)

連合長:ワーキンググループで4案を検討したが、いずれも難しいという結果となり、当面は医師を増やす、あるいは減らさない対策を進めていくとの説明があった。また、飯田市では診療所の承継・開業を促進するため、県事業に上乘せする形で1診療所あたり上限1,000万円の財政支援を予算化している。

阿智村長：複数の医師で診療所を運営する仕組みがあれば、現場としても活用しやすいと感じており、何とか実現できないか。また、総合診療医の確保や派遣についても強化が必要ではないか。

松岡医師：設備面よりも医師確保が課題であり、特に夜間対応を含めた継続的な体制に懸念がある。一方で、医師のローテーションや若手医師の研修の場として活用することで、一定の可能性はある。

連合長：本件については、包括医療協議会においても引き続き検討することとし、飯田市が中心となって医師会等と連携しながら進めていく。今後の検討状況についても適宜共有していく。

#### (4) 元気づくり支援金を活用したプロジェクトの実施状況について

【壬生広域振興係長】～資料 No.4～

元気づくり支援金を活用したプロジェクトの実施状況について資料を基に説明がなされた。

南信州環境メッセ 2025 については、2021 年の初開催から5回目の開催となり、飯田市、松川町、高森町、喬木村が実行委員会に参画している。令和 7 年度は、産業見本市と併催し、10 月 31 日から 11 月 2 日の3日間、エスバードを会場として開催した。民俗芸能継承プロジェクト事業については、地域内外の関係人口とのつながりを通じて民俗芸能の継承を図る取組であり、大阪・関西万博でのフェスティバル開催のほか、研究集会や情報発信等を実施した。今後は、環境メッセを含め各事業とも継続を前提に、内容の充実や新たな企画を加えながら展開していく方向で検討している。

→質疑等なし

#### (5) 文化芸術活動支援センターの運営状況及び利用者協議会の開催について

【吉川事務局長】～資料 No.5～

文化芸術活動支援センターの運営状況及び利用者協議会の開催について資料を基に説明がなされた。

3月5日に利用者協議会を開催し、条例改正やキャンセル料制度の導入、備品使用料等について説明を行い、あわせて運営状況の報告を行った。登録団体数は3月時点で 122 団体となっており、音楽やダンス分野の団体が増加傾向にある。施設利用状況については、開館から2月末までの実績として、利用率は約 40%、稼働率は 25.5%であり、徐々に上昇傾向にあるものの、想定よりはやや低い状況。施設ごとの利用状況については、ダンス・音楽向けの活動室や陶芸施設、展示室等で比較的稼働率が高い一方、構造上の制約により利用が限定される部屋もある。利用は昼間帯に集中し、夜間の利用が少ない傾向が見られる。利用者協議会では、制度変更について了承を得たほか、施設の案内表示の充実等に関する意見が出された。2月に開催された利用者主体のイベント「創造の森展」について、31 団体・約 320 人が出展し、3 日間で約 1,100

人の来場があった。

(6) 彫刻展示台等のはにかむベースへの移設について 【吉川事務局長】～資料 No.6～  
彫刻展示台等のはにかむベースへの移設について、資料に基づき説明があった。

飯田創造館前に設置されていた彫刻作品及び展示台について、県及び関係者と協議した結果、はにかむベース前へ移設する方針となり、既に移設工事が完了している。当該作品は、2012年の創造館増築時に設置された城田孝一郎氏の作品「さきがけ」を起点に、その後、野外展示の一環として展示台が設置され、作品展示が行われてきた経緯がある。現在は、はにかむベース A 棟前に設置が完了している。なお、現時点では展示台に作品は設置されていないが、今後、利用者団体等に対し作品展示の依頼を行っている。

(主な意見等)

連合長:先ほど創造展の話もあったが、いろいろな展示会を実施しているので、町村長さんにはぜひ足を運んでみてほしい。

(7) 令和8年度 SENA 委員の選出について 【壬生広域振興係長】～資料 No.8

～

令和8年度の SENA の委員の選出について資料を基に説明がなされた。

副会長:飯田市長

委員:豊丘村長

→質疑等なし

(8) 飯田広域消防から

【新井消防次長兼総務課専門幹、熊谷消防次長兼総務課長】～資料 No.8～  
ア 令和8年たき火火災ゼロ運動について 【熊谷消防次長兼総務課長】

令和8年たき火火災ゼロ運動について資料を基に説明がなされた。

令和8年1月以降の火災多発状況について報告があった。本日現在で火災は 32 件発生しており、前年同期比で 18 件増、概ね 2 日に1件の発生状況となっている。火災種別は、建物火災 12 件、林野火災4件、その他火災 13 件、車両火災3件であり、過去と比較しても多い状況で、今後の推移によっては最多件数となる可能性がある。出火原因は屋外での火の取り扱いが多く、特に届出のない焚き火が多い状況であり、風の強い時間帯に延焼するケースが目立つ。また、降雨が少なく乾燥した気象条件が続いていることも要因。現在は巡回指導や広報活動を継続して実施しているとのことであった。「たき火災ゼロ運動」を3月1日から 31 日までを実施期間とし、消防、消防団、市町村が連携して防火啓発を行う。飯田広域消防においては、車両広報やチラシ配布、現地指導等を実施しており、現在は林野火災注意報に伴う啓

発も行っている。市町村及び消防団に対しては、防災行政無線等による広報、巡回広報、チラシ配布や掲示物による啓発について協力要請を行った。

→質疑等なし

イ 南信州広域連合飯田広域消防職員の駐在派遣に関する協定書(案)について

【新井消防次長兼総務課専門幹】

南信州広域連合飯田広域消防職員の駐在派遣に関する協定書(案)について資料を基に説明なされた。

本協定は、遠隔地対策が必要な町村への消防職員の駐在派遣を目的とし、派遣職員は派遣先の一般職員として併任されるとともに、主として消防業務に従事し、併せて防災業務の補助を行う内容。役場に常駐することで初動対応の迅速化を図るとともに、住民や消防団との連携強化により地域防災力の向上を目指すもの。勤務条件については、給与及びサービスは派遣元が担い、施設や資機材等の使用及び経費は派遣先が負担する整理となっている。また、公務災害や懲戒処分等については派遣元で対応することとされている。派遣期間は令和8年4月1日から令和10年3月31日までの2年間とし、必要に応じて延長可能とする。今後、本協定案について承認を得たうえで、各町村との協定締結に向けた手続きを進めていく。

(主な意見等)

阿南町長:派遣先の町村で住むということはあるか。

新井次長:勤務形態については、原則として平日の8時30分から17時15分までの勤務を予定している。災害発生時等において警戒本部等が設置された場合には、役場職員と連携し対応に当たる体制とする。派遣職員の居住については、当面は通勤による勤務とし、派遣先に居住する形は想定していない。

(9) その他

後援依頼

以下については3月4日の正副連合長部会長会議で承認済み。

催事名:第27回中部社研時事フォーラム リニア開業を見据えたグリーンエネルギーによる地域づくり・産業振興

主催者:公益財団法人中部圏社会経済研究所

期日:令和8年4月14日(火)13時30分から16時まで

会場:飯田商工会議所交流ホール及びZoomウェビナー

以下いずれも承認。

催事名:中山間地域振興シンポジウム リニア時代の新たな伊那谷・三遠南信を目指し、今必要なこと

主催者(公財)中部圏社会経済研究所

期日:令和8年5月29日(水)13時30分から16時30分まで

会場:シルクホテル4階 飛天の間

催事名:焼來肉ロックフェス 2026

主催者:焼來肉ロックフェス実行委員会

期日:令和8年7月18日(土)10時から7月19日(日)20時まで

会場:野底山森林公園

#### 4 長野県

##### (1) 南信州地域振興局【岩下局長】

令和8年度の地域づくり支援金について、来年度事業については昨年末に説明会を実施し、年明けから募集を行った結果、46件、要望額は1億円を超える状況である。今年度から新たな重点化基準を設けており、ほとんどの申請が当該基準に沿った内容となっている。予算については、県全体として前年度と同規模で承認されており、配分額も概ね今年度並みとなる見込み。要望額が配分を上回っていることから、ヒアリング結果を踏まえ選定作業を進めており、4月下旬を目途に決定する予定。

続いて、みすずハイウェイバスの運行状況について、今年度は7往復運行しており利用者数は増加しているものの、1便あたりの利用はコロナ前には及んでいない。来年度も同様の運行体制とするが、利便性向上のため一部区間を途中停車しない便を試行的に設定する。今後も利用促進に取り組む必要があり、市町村に対しても周知・広報の協力をお願いしたい。

(主な意見等)

大鹿村長:元気づくり支援金について、当村では採択を前提として事業を計画し、当初予算に計上したところ、その内容が新聞記事として掲載された。その後、県から未採択段階での掲載について指摘を受けたが、事業を円滑に進めるためには事前に予算措置を行う必要があるため、その点について理解をいただければ。

地域振興局長:当該指摘については、あくまで正式決定前であることの注意喚起として伝えたものだったが、伝え方について誤解を招いた点があった。今後とも趣旨の理解をお願いしたい。

##### (2) 飯田建設事務所【折井所長】

本年度の事業推進にあたり、関係機関のご理解とご協力に感謝申し上げます。先週開催された建設事務所長会議において、新年度予算の考え方及び適切な執行管理について指示があった。新年度の具体的な配分額は現時点で未定であるものの、一定規模の予算確保が見込まれており、引き続き必要な事業を着実に推進していく。

### (3) 飯田保健福祉事務所【岩本所長】

現行の地域医療構想は2025年を区切りとしており、主に入院医療の再編及び地域包括ケアシステムの構築を柱として進められてきたが、実態としては病床数の適正化に重点が置かれてきた。今後は、団塊世代の高齢化の進展を踏まえ、入院医療に加え、外来、在宅医療、介護との連携を含めた医療体制全体の再構築を図る「グランドデザイン」の考え方に基づく新たな調整会議へ移行する。背景として、入院患者数や外来患者数の減少、病床利用率の低下、また高齢化に伴う医療・介護の複合ニーズの増加、救急搬送や在宅医療需要の増加がある。県内の将来推計においても、入院・外来患者数の減少や在宅医療・介護需要の増加が見込まれており、これらを踏まえた体制整備が必要。新たな構想では、入院・外来・在宅医療を一体的に捉え、関係者の役割分担を明確化する方針が示されており、市町村や住民の役割もこれまで以上に求められる内容となっている。また、地域医療構想の位置づけについては、今後は国の基本方針の下に地域医療構想が位置付けられ、それを踏まえて医療計画が策定される仕組みに変更される。構想区域については、人口減少等を踏まえた再編の可能性が示されており、圏域のあり方についても今後検討が必要となる。一方で、飯伊圏域は医療資源の連携により自己完結型の医療提供体制が維持されていると分析している。

今後の課題として、診療所の減少や医師確保の問題があり、長期的な体制維持が懸念される。

今後の進め方としては、市町村や住民の参画を強化し、必要に応じて協議の場を設けながら議論を進めていく方針が示された。

(主な意見等)

豊丘村長:佐久地域だけあまり医師の数が減らないのはなぜか。

保健所長:これは推測だが、佐久地域は、医局から派遣されてきている医師よりも、佐久の有名な病院に研修をして、そこで居つくという方が多いのではないかと思っている。そこに全国から研修に来て、そして佐久に残る。上伊那も含めて南信州では、大学の医局人事で動いていく。その地域に残るモチベーションが、少ないと考えている。

豊丘村長:新幹線の効果もあるか。

保健所長:新幹線の効果も当然あると思うが、病院の評価が全国規模。病院の力量とブランディングを非常に上手にやられたと思う。

高森町長:地元の医療機関と話をしていると、外来患者の受入れが難しくなっている要因として、医師数の減少が挙げられている。このため、従来は月1回であった定期受診について、3か月間隔まで延長するなど、やむを得ず患者数を抑制する対応が取られているとのこと。結果として、病院経営への影響があるものの、現状では対応せざるを得ない状況にある。また、外来受入れの制限や完全予約制の導入などの動きも、一部医療機関において見られている。こうした状況が、令和2年度以降の外来患者数減少の一因となっている可能性があるのではないか。

保健所長:コロナが一つのきっかけで、あまり受診しなくなった。外来が減ると入院も減っていくというパラレルな関係がある。何故減ったのかということは、コロナだけではなかなか説明しづ

らいところもあるため、高森町長のおっしゃったように、ドクターの数が減るということも当然原因の一つだと思う。

高森町長:この医療計画の中で、例えばドクターの人数が約90人から約30人まで減ってしまうところを、こういう段階で減らさないようにという計画を立てて、それに対して、例えば市町村の補助金を出す、開業医を増やす、総合病院のお医者さんを増やすみたいな計画を立てたとするが実際に実行できるのか。

保健所長:県が立てた従来の飯田にドクターを持ってくるという計画は、ほとんど失敗に終わっている。

高森町長:それでも計画は立てて、その計画に向かって何か活動していくということか。

保健所長:医療計画に基づいて、例えば財政的な支援を付けて医療体制を整備していく流れにはなっている。医師確保だけでなく、飯田市立病院のがん拠点機能のような部分にも補助をしていくという形。ただ、肝心の医師をどう増やしていくかという点になると、結局は大学との連携に尽きるが、そこがなかなかうまくいっていないというのが正直なところ。お金は出しているが、大学の人事に直接関わられるわけではないので、思うようにいかない。かといって支援をやめれば、さらに連携も難しくなるという状況で、非常にジレンマを感じているところ。やはり人事権を持っていないという点が、一番大きな課題。医療計画には大学のことを書いていない。ただ飯田と木曾の場合はまだ配慮してくれていて、研修医もローテーションも出してくれているようなところはあるんじゃないかなと私の感覚としてはある。

下條村長:来年度から調整会議の構成員に市町村長や地域住民が入るとあるが、市町村長については、この圏域で考えると北部・西部・南部、それに飯田市も含めて、全市町村が対象になるという理解でよいか。

保健所長:そこまではまだ詰めていない状況。全市町村とするのか、あるいは地域ごとに代表を出すのか、例えば南部・西部・北部で1名ずつとするのかなど、現在検討しているところ。飯田市については人口規模もあり、必ず入っていただくことになると思う。また、南部の課題が大きいということであれば、南部を複数名とすることも含めて、柔軟に考えていきたいと思っている。一方で、住民代表の選定は非常に難しいと感じている。実際に木曾地域では産婦人科や小児科の問題をめぐって住民との対話が厳しい状況になった経緯もあり、事前に丁寧な関与が必要だと認識している。住民代表として誰を選ぶのか、その妥当性の確保も課題であり、現在、保健所長会議でも議論になっているところ。

下條村長:構成員によってさまざまな意見が出ると思うが、地域ごとに状況がかなり違っており、特に南部は厳しい状況。そうした中で、全体としてうまく調整できるのか、その点はどのように考えているか。

保健所長:正直なところ、新しい仕組みのため、実際に運用しながら調整していく必要があると考えている。最初から最適な形にするのは難しいと思うので、不足している点があれば随時見直していきたい。むしろ様々な意見が出ること自体は重要だと考えており、必要な団体や関係者があれば、その都度参加を検討していきたい。

連合長:調整会議の構成については保健所で検討いただくことになる。こうした情報共有や意見交換の場については、今後も定期的に設けていきたい。

保健所長:調整会議だけでなく、この場も一つの協議の場として活用し、意見を集約していければと考えている。昨年は情報提供が不足していた部分もあったかと思うが、今年度は積極的に情報共有していきたいと思っている。

連合長:連合会議の中でも、市町村長同士で率直に意見交換できる場を設けることも検討したいと思う。これまでとは少し違った形での議論の場づくりを進めていければ。

#### 5 当面の日程について

4月16日(木) 広域連合会議(飯田合同庁舎講堂)

#### 6 その他

#### 7 閉会…16時10分